LES DIX-SEPT

レディセット

4月7日(木)～4月12日(火)

＊画像・イラスト等の保存・転載・無断使用はお断りします＊

赤司建一郎　Akashi Kenichiro

宮本 光信　Miyamoto Mitunobu

山岸 恒雄　Yamagishi Tuneo

今週の展覧会は毎年開催されているレディセット展のみなさんです。宝塚大学（旧宝塚造形芸術大学）大学院をの卒業生･受講生で中村貞夫氏を師事された方々で結成されています。会場に展示された作品は全部で 20 点、今年は人物と山の風景の展示となりました。全体の作品を見ていると、人物の肌の色や影の中にある色彩豊かな表現で描かれており、黒色をあまり使われていない作品が多く感じます。今回展示された赤司 建一郎さん宮本 光信さん山岸 恒雄さんの作品を見ると焦げ茶などの黒に近い色は使われておらず、全体的に人肌のやわらかさなどが伝わってくる様にも思えます。このような青みがかった色などで影を入れている描かれ方はどこか印象派の描く世界観と似通った点が見えてきます。

3 名の作品はそれぞれの特徴があり、赤司さんの作品は線・面で描かれており、人物画に近づいて見るとパレットナイフなどで模様がつけられているのが見えます。一方、風景画は柔らかな線で描かれているため、どこか爽やかな印象を抱きます。宮本さんの作品は、筆の跡を残したようなタッチや色を盛りつけた様な表現で描き込まれており、凹凸のある作品が自然な影を作り作品の中に映り込ませるという面白い表現をされています。季節が進むことで山の変化を楽しめる作品です。山岸さんの作品は点と線によるタッチで描き込まれています。人物に描かれたアウトラインが青色をなどをぼやかして描かれているので、肌の柔らかさかが際立つ様に思え、岩山の荒々しさや肌の柔らかさなどの表現の違いがとても印象的な作品です。